東京東村山ロータリークラブ　国際ロータリー第2580地区

週報

国際ロータリー
テーマ

奉仕を通じて
平和を

Vol.46　第2232回例会　2012.9.27

今年度会長テーマ　和で輪を広げ、前に進もう

■司会：
野澤例会運営
副委員長

■点鐘：中丸会長

■合唱：ロータリーソング
「それでこそロータリー」

◆ソングリーダー：
野澤会員

■お客様紹介：
目時パスト会長

◆お客様：卓話者　朴動浩様

■会長報告　中丸会長

皆さんこんにちは。ここ4～5日は朝晩を中心に、大分秋めいてまいりました。厳しかった夏もようやく終わろうとしています。今日は9月最後の例会です。10月にはＩＭ・ガバナー補佐訪問によるクラブ協議会と忙しい日程が続きますが、皆様のご出席とご協力を宜しくお願い致します。

さて、今日9月27日は私の誕生日で56歳となりましたが、今日がどの様な日であったかご紹介させて頂きます。

私と同じ誕生日の人物は、古くは長州藩の高杉晋作(1839)、将棋の羽生善治(1970)、プロサッカーの小野伸二(1979)等がいます。

歴史上の出来事としては、先の大戦に繋がる日独伊三国同盟の調印(1940)、終戦後に昭和天皇がマッカーサーを訪問(1945)、日本の新幹線に遅れること12年、フランスの新幹線ＴＧＶが営業開始(1981)、横浜ベイブリッジの開通(1989)等々がありました。

また日本初の地下鉄である銀座線、上野・浅草間2.2kmの起工式が87年前(1925)のこの日に行われました。因みに現在の地下鉄で一番高い場所にある駅は銀座線渋谷駅で、反対に一番深いところにある駅は大江戸線六本木駅だそうです。そして駅と駅との間隔が一番短いのは、丸ノ内線の新宿駅・新宿三丁目駅間でその距離わずか300mとの事です。

最後に私事ですが、昨日東村山市ゴルフ連盟秋の大会が青梅ゴルフ倶楽部で行われ参加して参りました。当クラブからは野澤会員、田中会員も参加されました。そのコンペでなんと生まれて初めてハーフ(東コース)35を達成することが出来ました。(2バーディー1ボギー)とても嬉しく本日ニコニコを入れさせて頂きました。

以上で挨拶を終わらせて頂き会務報告をさせて頂きます。

■例会日／毎週木曜日　12:30～13:30
■例会場／八坂神社　社務所
〒189-0013　東京都東村山市栄町3-35-1

■クラブ管理委員会／石山　敬
■事務所／〒189-0013
東京都東村山市栄町3-5-1ハイツむさしの101
TEL　042-393-7500　FAX　042-395-1166

■幹事報告　赤木幹事

■ロータリー財団：
「未来の夢」ニュース9月号の受理（メール便）

■多摩分区前ガバナー補佐：
「水野パストガバナーを囲む会」日程変更の案内の受理
11月9日→11月16日（金）

■国際ロータリー日本事務局：
2012年10月のロータリーレート　1ドル＝80円

■ガバナー事務所：
・地区大会ホームページ開設のお知らせについて
URL　http://jojoinn.co.jp/2012-13%20meeting/Portal.htm
ホストクラブ宜野湾ＲＣにより随時更新

・ガバナー公式訪問に関する連絡の受理
日程：2012年11月15日（木）　　於　八坂神社例会場
11:30～12:30　会長・幹事との打合せ
12:30～13:30　例会
地区訪問者：石川ガバナー、本荘地区副幹事
分区より山田ガバナー補佐、松村分区幹事の訪問も確認済み
※クラブ概況は10/4出来上がり予定。受け取り次第、提出書類とともにガバナー事務所あてに郵送いたします。

■米山奨学委員会：
米山学友会（東京）ピクニックの案内の受理
2012年10月21日（日）　11:00～
未来館集合：日本科学

■ロータリー米山記念奨学会：
中国学友会総会延期のお知らせについて
中国学友会からの国際情勢の悪化に伴う延期の申し出
2012年10月27日→来年3月を目処に延期

■東京福生ＲＣ：
<訃報>石川会長ご尊父様逝去
通　夜　2012年10月1日（月）　18:00～
告別式　2012年10月2日（火）　11:00～
喪　主　石川 太郎様（2008～09年度幹事）

■東京秋川ＲＣ：
2012～13年度ＩＭの案内の受理とお願い
会長・幹事・各地区委員へ案内状の受理
当日の胸章持参と事務局派遣依頼（12時集合、受付）

■ローターアクト委員会：
卓話依頼について
ローターアクト活動に関わる卓話の申し出
問い合わせ卓話窓口：増田悠太朗

■例会場変更：
東京ベイＲＣ
新事務所：墨田区錦糸町1-1-5 Ａビル6F

■バースデーソング合唱

■誕生月：中丸会長

■出席報告　相羽会員

在籍会員数	出　席	免　除	欠　席	出席率
31	23	0	6	79.31

■前々回メークアップ修正後前々会欠席：5名
■前々回出席率メークアップ修正後：84.85％
■前々会メークアップ者：
飯田会員：地区委員会
石山会員：理事会
小町会員：理事会
嶋田会員：東京東大和ＲＣ
當麻会員：東京東大和ＲＣ

■ニコニコＢＯＸ　山宮クラブ管理委員

■皆出席：
野崎会員（23回目）
野村（高）会員（10回目）

◆中丸会長、赤木幹事：
本日は10月の米山月間に向けての卓話、朴さん、野崎米山地区委員長よろしくお願い致します。小町直前会長、新事務所の移転おめでとうございます。新事務所

の移転おめでとうございます。新事務所での益々のご活躍をお祈り申し上げます。

◆中丸会長：昨日の東村山ゴルフ連盟秋季大会にて初めてハーフ35のスコアを達成しました。2バーディ1ボギーです。大変嬉しくニコニコを入れさせて頂きます。

◆田中会員：ありがとうございました。昨日行われました東村山秋季ゴルフ大会、60歳以上でグロス第1位となりました。10月18日東京都大会東村山代表選手としてスポーツ宣言都市東村山チームが優勝できるよう、死ぬ気で頑張ります。東村山ＲＣ皆様のおかげです。

本日のニコニコ合計：　19,000円
累　　計　：　486,000円

■３分間スピーチ

■紹介者：
山本職業奉仕委員長

皆さん、こんにちは。3分間スピーチが始まりましてだいぶ経ちます。今日はできるかな、ギリギリかな、と時折ヒヤヒヤしながらご紹介をさせて頂いているのですが、今日は時間があるということで、樺沢さんの3分間スピーチ、ゆとりを持ってやっていただきたいと思います。よろしくお願いします。

■樺澤パスト会長

私の職業は、弁理士です。英語ではPatent Attorneyです。

ロータリーには、ドナルド・カーター物語というお話があります。1906年当時、シカゴ・ロータリークラブに入会するように勧誘を受けたドナルド・カーター(Donald M Carter)は、ロータリークラブの説明を受けて、「親睦と会員相互の利益ばかりでなく、会員以外の人々にも何らかの利益をもたらすことを考えるべきでしょう。ロータリークラブに入る気はありません。」と答えたとのことです。この経緯から、シカゴ・ロータリークラブの定款に奉仕の理念が加えられました。このようドナルト・カーターがロータリークラブに奉仕の理念の重要性を気付かせたというお話です。このドナルド・カーターの職業は私と同業の弁理士でした。

私が当クラブに入会させて戴いた当時、パスト・ガバナーの故阿部士良先生が弁理士という職業はロータリーでは歴史的に良く知られている職業であるとこのドナルド・カーター物語を教えて戴きました。

弁理士制度は、高橋是清が欧米視察の結果、欧米の制度に倣って明治32年に創設され、歴史は長いのですが、私が弁理士登録をした当時は殆ど知られていない職業でした。

最近、「アップルとサムソンとの特許係争」、「切り餅の特許訴訟」、「正露丸の侵害訴訟」など新聞、テレビで報道されていますが、弁理士は、このような特許、商標、不正競争、著作権などの知的財産権に関する出願代理などを主な業務としております。また、私どもは日本ばかりでなく、現在は150国以上の世界各国に知的財産制度があり、日本から世界各国への出願、または、世界各国から日本への出願ができ、私どもでは正確に数えたことはありませんが、80ヶ国以上の国とお付き合いをしています。

そして、私が弁理士になりましたときには、先輩から、弁理士は、先ず、品位を保持すること、そして、業務に関する法令及び実務に精通するように常に勉強すること、さらに、公正かつ誠実にかつ秘密を守り、その業務を行うことを、お酒をご馳走になりながら耳にたこができるほど叩き込まれました。これが、弁理士倫理として規定され、さらに、弁理士会会則にて違反者には罰則が加えられるように規定され、最近は法律で規定されています。特に、業務内容は秘密性が高いため、弁理士およびその従業員までも厳格な秘密保持義務を負わせられ、違反者は弁理士ばかりでなく従業員までも刑事罰を受けることになっております。

■卓話

■卓話者紹介：
目時米山奨学会委員長

皆さん、こんにちは。米山月間でございますが、皆さんご承知の通り、私どものクラブから野崎会員が地区の副委員長として大活躍されております。今日の時間は野崎会員にバトンタッチします。よろしくお願い致します。

■卓話者紹介：
野崎地区米山奨学会
副委員長

皆さん、こんにちは。貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。ロータリーの成り立ち等については皆さんすでにお聞き及びかと思いますが、年度初めに「ロータリー米山豆辞典」というものをお配りしております。簡単に言いますと、ロータリー米山奨学基金というのは、米山梅吉翁が始めた事業ではない

わけです。米山氏は1947年にお亡くなりになり、その功績を記念して1952年にこういう発案がなされ、1960年に正式に米山奨学会というものが発足しました。

また、1967年に財団法人として当時の文部省の方で認可をうけております。今年になって公益財団ということで、正式に認可も受けております。このクラブでも２回程、米山記念館を訪問しておりますので、いろいろと知識はお持ちかと思いますが、米山奨学会と米山記念館の方とは全く別の組織になっており、寄付金等については米山の奨学生の方に充当する形になっております。

ロータリー米山記念奨学事業とは、全国のロータリアンからの寄付金を財源として日本で学ぶ外国人留学生に奨学金を支給し、支援する国際奨学事業です。これを目的とし、その使命としては将来、日本と世界とを結ぶ架け橋となって国際社会で活躍しロータリー活動のよき理解者となる人材を育成することです。これはロータリアンの目指す、平和と国際理解の推進そのものです。全国でこの事業は各地区ごとに委員会がありまして、募金活動やカウンセラーを通じて奨学生の支援をしております。この米山奨学事業の大きな特徴は、世話クラブとカウンセラーという制度、また、日本最大の民間の奨学事業、というところです。大事なことは、2000年に1,097名の奨学生を支援しておりましたが、11年度には827名、去年は793名、来年は700名を切る恐れがあります。ロータリアンが減っていること、現在の経済情勢や景気の悪さ、この二つの面から急速に資金が足りなくなっております。学生を維持するためには、だいたい年間9億円程必要なのですが、基本的な積立金の方から毎年、いくらか援助をしているという形になっております。

寄付金には、特別寄付金と普通寄付金があります。普通寄付金というのは、会の方で一定の人数を掛けて拠出しているのですが、特別寄付金というのは、10万円を拠出しますと米山の功労者ということになります。それによって税制上の優遇措置等もあります。皆さんは寄付をしたお金がどのように使われたかに一番関心があるかと思いますが、収入のうち一般管理費に使われるのが4.2%ということなので、ほとんどが米山奨学会のいろんな事業と、学生の奨学金に使われる、ということになります。特に学生の奨学金については、全寄付金額の82.6%ということですので、極めて集めたお金が学生の方に回っていると思います。

本日はこれから「素晴らしい贈り物」ということで福島の三春に留学した中国の女子学生のＤＶＤを放映します。2008年～2010年の留学ですので、震災前になりますが、震災後のことについてはまた、調べてみたいと思います。放映の後、朴さんに今までの研究のことも含めて卓話をお願いしたいと思います。

■卓話者：朴動浩 様

こんにちは。今日は論文の話ではなく、研究の話をしたいと思います。ネットから拾ったものですが話の参考になればといくつか画像を準備しました。

私は建築の専攻をしていて、建築計画という分野の勉強をしているのですが、その中でも普通の建築計画というと、学校や病院、住宅などいろんな建物の種類を決めてその専門になるような勉強をしています。私はそれと違って、環境心理学という名前をよく使うのですが、人間の行動を研究しています。私が興味を持っている分野は「領域性」と「公共性」という二つのキーワードなのですが、今日は「領域性」の方をみなさんにお話ししたいと思います。領域性というのは言葉通り、領域の性質を扱うものですが、領域という言葉は、動物学ではよくテリトリーという言葉を使いますが、同じ種類の動物の間で、例えば犬なら犬同士、自分の領域を確保する、これをテリトリーといいます。もしくは、例えばサルだったらＡグループ、Ｂグループのようなグループを作ります。ＡとＢで同じ食べ物を狙っているとすれば、そのグループ間で力を使って自分の縄張りとして守ろうとすることをテリトリーといいます。

人間の行動でも同じようなことがあります。花見の場所取りの場合、シートの中に入れるのは自分のグループの人だけ、というように領域を示しています。日本語にすると、縄張り的な感じですが、縄張りというと普通の生活の中では意味が違ってきます。人間の場合はスケールの問題ですが、目に見える領域以外でも観念的な領域というのがあります。私は東村山という名前を聞くと、この会場を思い浮かべます。東村山という広い町ですが、それに対するイメージはあまりなく、東村山といえば私にとってはこの部屋の領域というように、観念的に思い出せる、つながっている領域というものが人間には存在します。

もう一つは、パーソナルスペースというものがありますが、人それぞれに自分の周りに泡のようなバブルが存在しています。例えば、人と話すときにどれくらいの距離をとって話すかとか、私は今、ここに立って話をしていますが、皆さんとの距離をもう少し縮めたり離れたりすると、多分不便だったり、ストレスを感じたりすると思います。距離が守られるように人それぞれに関係を持つべきですが、地下鉄の写真で説明すると、満員電車に乗っている人は守ろうとする距離が無視されて一時的に人に侵入された感じを受けます。この状態で長い時間乗っていると、ストレスを感じ、病気になる人も出てきます。そういうことがあるということは、人間同士は距離というものが文化的に、個人的に、もしくはグループごとにルールのように決めてあるということが分かってきました。恋人同士はもっと近くで話したり、ビジネスではもう少し遠く、顔や体を向けたりなど、調節することはよく知られております。

また、東洋の人に聞くと一番大きなものが一番前、西洋の人は一番小さいものが一番前というと思います。どこを向いているのか、またどこからの視点なのかによって領域の認識が全く違うということが分かります。また、私の左の人、と聞くと、私から見て左か、向かって左か、など言葉の問題になってきます。だから領域を認識するというのは決められたルールではなく、人によって、また文化によって違ってくるということが研究で明らかになっております。

建築の話に戻しますと、日本の民家と韓国の民家の写真を比べてみてください。世界から見て珍しく同じように見えますが、造り方から見ると日本の民家はまず枠をつくり、その決められた枠の中で部屋を分けるという住宅の造り方をします。韓国はそれと違って、必要な部屋があったらその隣にまた部屋をつくり、またそれを広げていく、そこでできた形を塀で囲んでその中を自分の領域と認識するのです。だから日本の場

合は自分の住宅の玄関に入ったら、そこは自分の領域だという認識が強いです。家族同士ではそれほどプライバシーの概念がないような気がします。でも玄関の外にでるとすぐパブリックスペースになります。韓国の場合はそれと違って、玄関を入って自分の部屋に行くときには別々に靴を脱ぎます。だから自分の部屋が家族に対してもう少しプライベートになります。よって、領域の認識というのは国それぞれ文化それぞれというのが証明できると思います。

食べ物の配置でも同じようなことが言えます。日本の和食の場合は自分の食べ物が決められていて、配置もみな同じようになっています。韓国の食卓は食べないものを置いておいてみんなで食べます。友達が遊びにきたとすると、日本ではみんなと同じものを一人分用意します。隣で同じものを食べながら話をするでしょう。しかし韓国では、ただごはんをもう一つ用意すればいいのです。それは誰かが侵入しやすい領域性の感覚を持っているからです。侵入しやすいのですが、侵入した後のルールとして、どこに誰が座るのか、好感の高さが分けてあり、親と子、男と女などのルールが厳しく守られていると言えます。これが日本と韓国の領域性のちょっとした違いです。

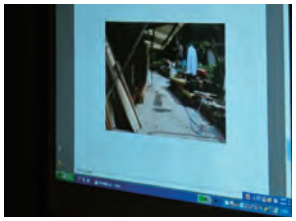
私の経験ですが、小手指に住んでいた時に家のすぐ前にパブリックの駐車場があり、そこから西武遊園地の花火が見えました。それを見て帰るときに、駐車場の外側のフェンスに日本人が立っていて、そこからは花火が半分しか見えませんでした。私はその駐車場はパブリックスペースなので、花火が一番よく見えるところに侵入してもいいのだなと思っていました。でも日本人の感覚では自分のものではないから入ってはいけないと思ってようで、管理者も車もいなっかたのですが入ってこなかった。その時は日本人の侵入意識はすごいものだな、と認識しつつ、思ったのはパブリックに対する姿勢としてはそんなにいいものではないと私は思っております。決して非難しているのではなく、アジアの都市がどうしてヨーロッパのようにきれいにならないのかという質問に答えるときに、よく日本人の事例を出します。パブリックは自分のものではないという意識が強くて、誰も管理しない空地になってしまっているところも多いです。ただその意識は固定されているわけではなく、学習することができ、体験することで「もっと町をよくしよう」とか「ここは私の町だ」と感じることができます。

日本の場合には「祭り」があります。いつもは座らない場所や車が通る道路も、祭りのときだけはそこに座って話をしたり、食べたり、踊ったりといった体験を通して町に対する愛着が高まります。これは自分のものだから管理しようという意識が高くなり、それによって町づくりが循環する、ということが研究に出ています。韓国の場合は残念ながら祭りというものが残っておらず、都市が発達するにつれ古いものはなくなっていきました。ただ、2002年のワールドカップの応援の時には、大通りに出てみんなで応援したのですが、その日を境に、韓国人の都市に対する領域性の認識が全く変わったということがいろんなところで証明されています。やはりパブリックというものはみんなのものであるという意識が高くなっているのがよくわかります。

それは領域性と公共性が一緒になる瞬間だと私は表現するのですが、例えば、現代の世界で行われている都市計画は西洋からの理論で始まったもので、何か明確でないとダメだとか、効率的、快適、シンプル、分かり易さ、そういったものが価値があるとして認められてきました。ただ、アジアの場合はそうではないような気がします。曖昧で、決められてなくて、アナログ的で、そしてお互いに合わせていく、というような関係がもっと重要なのです。西洋でいうとオブジェクトが重要なのですが、東洋でいうと、その「もの」と「私」との関係が重要なのです。この西洋と東洋の認識の差が、実はアメリカのマンハッタンみたいな都市を世界中につくっていこうとする動きに対しての一つの答えではないかというのが今の私の考えです。

調査としては、どういうことをやっているかというと、スラムの町の写真で説明すると、これは町の中にある唯一の通路です。この前の家に住んでいる人はこの道路を自分の庭のように使って洗濯物を干しているので、この町に住んでいない人はここに遊びに来たとしても、絶対にここは通れないと思います。ただ、この町に住んでいる人は、ここを通らないと自分の家に帰れないということで楽々と通ります。現代の都市というものは、安全とか快適を求めていてオートロックやよそ者が入れない町をつくろうとします。ところが先ほどの町にはこういうものは必要ないのです。パブリックスペースによって、知らない人が通るのはダメ、というように自然と管理されています。こういう自然的、アジア的な観点から都市を見るともっと楽しくてよい町になるのではないかというのが私の主なテーマです。

最後になりますが、皆さんいつもお世話になります。これからも頑張りますのでよろしくお願い致します。



■点鐘：中丸会長